



THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKOROZAWA

12月 2020年度 通巻 375号

(EMC/MC)



会長 東 裕二	クラブ会長主題 「つながりを大切に」
副会長 小関京子	国際会長主題 Jacob Kristensen (デンマーク)「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
書記 大澤和子	アジア会長主題 David Lua(シンガポール)「変化をもたらそう」
会計 澁谷弘祐	東日本区理事主題板村哲也 (東京武蔵野多摩)「変化を楽しもう」
	関東東部部長主題 柿沼敬喜(東京グリーン)「学びと親睦を糧に外へ向かおう」

今月の聖句

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」
(ローマの信徒への手紙 12章 1節)

「人生を見つめ直すきっかけ—教誨師の活動」

澁谷弘祐

教誨師とは少年院や刑務所などに入所している方々の宗教的欲求に応え、社会復帰を支援する民間ボランティアです。日本国憲法は信教の自由を保障し、国の宗教的活動を禁じているため、宗教教誨は民間の宗教家に託されています。活動について私を例にすると、月1回の集合教誨と希望者に対する個人教誨があります。集合教誨は複数人で聖書を学び、個人教誨は1対1で悩みを伺うことが多いです。初対面で教誨を希望した理由を尋ねると、多くは刑務所で自分を振り返るうちにキリスト教や聖書に興味を持ったと返答されます。クリスチャンではなく教会も行ったことがないという方も少なくありません。私の方法は開始5分で私自身の一ヶ月の生活で印象に残ったことを話し、その体験と聖書の言葉がどのように関わるか、新しい発見と自分のこだわりへの反省を話し、信じるものがあると自分を突き放して観察できるようになります、と締め括ります。すると大体興味深く聞いて下さいます。

委嘱を受けて2年足らずの活動で、嬉しかったことが2つあります。1つは個人教誨を担当した方が新しい自分を発見したことです。人を必要とする自分から人に必要とされる自分へ変わりました。固い表情で反省を述べる様子から、柔らかい表情でお礼を言われた喜びを語るようになられました。もう1つは昨年担当した刑務所でのクリスマス行事で、大澤さんと狭山キリスト教会の小坂嘉嗣・由紀子両牧師に助けて頂き、歌と心の触れ合いをプレゼントできたことです。全く知らない赤の他人が自分のために訪ねてくれる、孤独に寄り添うことが社会復帰の支えであると実感しました。支え合いに感謝します。

12月例会プログラム(ハイブリッド例会)

日時 2020年 12月 12日 (土) 18:00~20:00

場所 (公財) 埼玉YMCA所沢センター

司会

小関メン

- | | |
|----------------------|------|
| 1. 開会点鐘 | 東会長 |
| 2. ワイズソング | |
| 3. ワイズの信条 | |
| 4. 聖書 | |
| 5. 卓話 「聖書の言葉の実現を目指す」 | 澁谷メン |
| 6. ワイズ報告 | 東会長 |
| 7. 誕生・結婚記念 | |
| 8. にこにこ | 澁谷メン |
| 9. 閉会点鐘 | 東会長 |

※ コロナ終息までの会食はいたしません。
ご自分の飲み物をご持参ください。
会費 500円、お土産は颯埜扉クッキー

今後の行事予定

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 12/12 (土) | クリスマスおやつプレゼント |
| 12/12 (土) 18:00 | 12月例会 (クリスマス例会) |
| 01/16 (土) 18:00 | 1月例会 |
| 02/13 (土) 18:00 | 2月例会 (卓話: 黒田さん予定) |

準備例会報告

東 裕二

日時：2020年11月23日（月）18時45分～

場所：ZOOM

参加者：大澤さん、黒田さん、澁谷さん、東

1. ブリテン12月号の内容（担当） 締め切り
11/25日
2. 12月例会について
3. 1月例会について
4. 2月例会について
5. クリスマスおやつプレゼント（12/12（土）予定）

11月例会報告

浅羽俊一郎



今月の例会は埼玉クラブの浅羽メンが地域活動を始めようとしている「き咲きてらす」を会場にNPO「水のフォーラム」の藤原梯子理事長から話を伺いました。藤原さんはさいたま市内で水の循環を多面的に学ぶ「水と緑のアカデミー」を主催する傍、見沼田んぼにて市民活動として無農薬・無肥料の稲作に取り組んでこられて、今年で20年になる。

そもそも1996年に国土交通省の河川審議会答申を編集者として文言整理したのがきっかけで市民活動を始めることになったが、20年経った今改めて皆さんと日本の水行政を考えたい。

日本の国土はその成り立ちからして、洪水・渇水といった水災害が起こりやすいが、それだけに生態系は豊かである。しかし人々は河川が水循環経路の一部で、地下水とも用水路ともつながっており、農業や工業、そして人々の生活に直接影響していることを知らずに暮らしてきた。そして日本の河川は流域を総合的に管理運営するという視点が肝要だが、明治以来の省庁の行政区分がそれを難しくしている。例えば「田んぼを畑に変えればその分、農業用水を他の目的に回そう」という発言は人間を含む生態系全体が流域の水循環に依存していることを知らない都市住民の一面的な

発想を表しているし、反対に農業排水の富栄養化による東京湾の赤潮・青潮の問題は河川上流の農家集団の下流への影響についての理解不足がある。

ついで埼玉県河川の（主に利根川、荒川、渡良瀬川、思川）を例に流域のことを考えたい。埼玉県はその4割が沖積低地であり、災害時に河川の堤防が決壊すれば広い面積が氾濫に被害に遭うことになる。こんな地形のハンディを克服しようと為政者・住民は大宝律令の昔からずっと工夫して来た。諸文書によってそれぞれの時代に進められた洪水対策、運河・用水路の建設、流路の変更、あるいは大宮氷川神社を筆頭に県内各地に多い神社から、埼玉県には長い総合水政の歴史があったこと分かる。（藤原氏は様々な具体例を出して説明された。）



最後に藤原さんは市民・農家・行政が協力して従来の政策区分を超えて治水・利水・河川環境保全に取り組むことを求めてこれからも市民活動を続けたい、と話を結んだ。（詳しくは本講演のために藤原さんが用意された別紙資料、さらに「水とミドロのアカデミー講義要約」（1～4）、太田猛彦氏（東大名誉教授で本アカデミー校長）著「森林飽和」（NHK ブックス）をご参照ください。



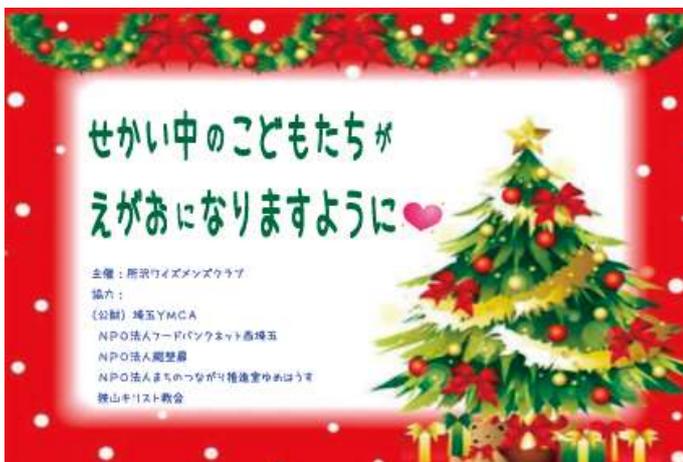
ワイズ報告

東 裕二

・11/14（土）第2回関東東部評議会に次期部長の大澤さんと東で参加しました。関東東部ではCS事業奨励金やゴーゴーキャンペーンなどが今年度実施されています。東日本区では新入会の会員は区大会費の補助を行うウエルカムキャンペーンや周年記念を迎えるクラブにはアニバーサリープレゼントプランなど様々な計画が実施されています。



・地域の子供たちにお菓子をプレゼントする〈クリスマスおやつプレゼント〉を実施します。フードバンクネット西埼玉、颯埜扉、埼玉YMCA、その他に様々な企業様の協力を頂きありがとうございます。詳しくはフェイスブックにてお知らせいたします。



YMCA 報告

央戸 誠一



第21回埼玉YMCAインターナショナル・チャリティーランが11月3日～11月23日の期間でバーチャル(申告制)で開催されました。今回はラン・ウォーク・スイム・バイクの4通りから選んでいただき、ご自身で動いた距離を申告する初の試みでした。参加賞の「はなれていてもつながってイマスク」をつけて、この様な状況でもチャリティーランを楽しんでいる姿の写真をSNSなどで投稿していただきました。11月29日(日)に行われたZoomでの閉会式も無事に終わり、当初目標であった、埼玉県21周の8127kmを大幅に超えて、10507kmという数字になりました。たくさんの方にご参加いただき、障がいのある子ども達の支援金とさせていただきます。ご参加・ご支援いただき本当にありがとうございました。



11月例会 (埼玉クラブとの合同例会)
埼玉クラブ 4人 所沢クラブ 3人
サンライズクラブ 1人 ゲスト 7人
合計 15名